

9.29(sat) 弦楽亭室内オーケストラ第4回コンサート

(第1回ジュニアクラシック音楽コンクール入賞者との共演を含む)

開演/15:00 会場/那須町文化センター大ホール 料金/1,500円

Program

■ ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト： 交響曲第41番 ハ長調 K.551「ジュピター」

第1楽章：アレグロ・ヴィヴァーチェ
第2楽章：アンダンテ・カンタービレ
第3楽章：メヌエットーアレグロ
第4楽章：アレグロ・モルト

交響曲第41番ハ長調 K.551「ジュピター」はモーツァルトの最後の交響曲で、32歳のときにウィーンで完成された。同年作曲された交響曲第39番、交響曲第40番とともに「3大交響曲」と呼ばれている。わずか2ヶ月間という驚くべき短期間で、性格の違う3つの交響曲を一気に書き上げたことは、モーツァルトの天才ぶりをよく表わしているといえよう。副題の「ジュピター」は、当時のヴァイオリン奏者でプロデューサーでもあったザロモンが、作品のスケールの大きさとギリシア的なイメージから、ギリシア神話の最高神の名前で名付けた。モーツァルトを崇敬していたリヒャルト・シュトラウスは、「ジュピター交響曲は私が聴いた音楽の中で最も偉大なものである。終曲のフーガを聞いたとき、私は天にいるかの思いがした」と賛辞している。終曲フーガ(4楽章)の最初に出てくるテーマは「ジュピター音型」と言われる有名な音型(CDFE、ドレファミの4音符)で、モーツァルトが大変好んだモチーフであり、グレゴリオ聖歌に起源を持つと言われている。まさにモーツァルトの交響曲の中でも、白眉というべき楽章となっている。

■ 第1回那須ジュニアクラシック音楽コンクール 入賞者披露演奏

～休憩～

■ 第1回那須ジュニアクラシック音楽コンクール 入賞者披露演奏

■ ヨハネス・ブラームス：交響曲第3番 へ長調 op.90

第1楽章：快活に速く、生き生きと
第2楽章：歩くような速さで
第3楽章：少しばかり速めに
第4楽章：快活に速く

弦楽亭室内オーケストラのコンサートは、曲目選びがすべてといっても過言ではない。曲の魅力に引きつけられてメンバーが集まってくる。だから毎回大変な苦闘を強いられるのであるが、今回はかなりすんなり決まった。あの名曲、ブラームスの交響曲、そしてあまり演奏の機会がなく、あこがれの曲と、多くのメンバーがささやく、第3番である。音大ではオーケストラの授業で取り上げることも多く、音大出身のメンバーにとっては青春の曲であろう。この第3番は、曲全体が勇壮なイメージであることから、ブラームスの英雄交響曲と呼ばれているが、第3楽章は哀愁感あるメロディで、イングリット・バーグマン主演のアメリカ映画「さよならをもう一度」の挿入曲となっている。ブラームスはこの曲を、密かに気持ちを寄せていたアルト歌手が滞る避暑地で書き上げていて、古典的な4楽章で簡潔ななかにも、情感豊かなフレーズが多くあり、聞き手にも、弾き手にも楽しめる曲となっている。

Profile



柴田真郁【指揮者】

1978年東京生まれ。高校では演劇を学ぶ。国立音楽大学声楽科を卒業後、合唱指揮やアシスタント指揮者として藤原歌劇団、東京室内歌劇場等で研鑽を積む。2003年に渡欧、ドイツ各地の劇場、オーケストラで研鑽を積みながら、04年にウィーン国立音楽大学マスターコースでディプロムを取得。同年末には、ハノーファー・シルベスター・コンサート(ドイツ)に客演しプラハ室内管弦楽団を指揮。翌年末のベルリン室内管弦楽団にも客演を果たし好評を博す。2005年、リセウ大歌劇場(スペイン・バルセロナ)のアシスタント指揮者オーディションに合格し、セバスティアン・ヴァイグレ、アントニ・ロス＝マルバ、レナート・バルンボ、ジョセップ・ヴィセント氏等のアシスタントとして、様々な演出家や歌手と上演に携わった。帰国後は主にオペラ指揮者として活動し、池辺晋一郎作曲オペラ「死神」で日本オペラ協会デビュー。五島記念文化財団オペラ新人賞を受賞。ヴェルティ作曲オペラ「仮面舞踏会」で藤原歌劇団本公演デビュー。石井欽作曲「袈裟と盛装」、ブッチーニ作曲「トスカ」に客演を重ね好演を果たす。名古屋音楽大学、関西歌劇団、堺シティオペラ(大阪文化祭賞奨励賞受賞)等に指揮。近年では管弦楽にも力を入れている。これまでに日本フィルハーモニー交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、東京ニューシティ管弦楽団、日本センチュリー交響楽団、大阪交響楽団等と共演。指揮を十東尚宏、星出豊、ティロ・レーマン、サルバドル・マス・コンデに師事。



矢野晴子
【ヴァイオリン】



山本大将
【ヴァイオリン】



小林明子
【ヴィオラ】



矢野晶子
【チェロ】



村松裕子
【コントラバス】



服部孝也
【トランペット】



松本ゆり子【チェロ】

東京芸術大学音楽学部附属音楽高校を経て同大学卒業。同大学大学院(室内楽専攻)修了。アポロン弦楽四重奏団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団等において国内外の多くの音楽祭、演奏会に出演。近年はソロや室内楽、オーケストラへの客演首席での出演の他、楽譜の監修やCDのリリース、後進の指導など幅広く活動中。



石川一【ファゴット】

北海道旭川市出身。1982年武蔵野音楽大学卒業後すぐ群馬交響楽団員となり第231回群響定期演奏会ではモーツァルトのファゴット協奏曲のソリストを務めた。草津夏期国際音楽アカデミー&フェスティバルでM・トゥルコヴィッチやC・トゥーネマンのレッスンを受け、また海外の演奏家との室内楽も数多く共演している。林正輝、山畑馨、岡崎耕治の各氏に師事。



比嘉一博【バストロンボーン】

1967年生まれ、沖縄県出身。尚美音楽短期大学入学。東京コンセルヴァトアール尚美卒業。卒業演奏会出演。同校ディプロマコース卒業。フレッシュコンサート出演。東京文化主催、新人推進オーディション合格。ソロリサイタルを開催する。テナートロンボーンを松本照、バストロンボーンを喜多原和人、井上順平の各氏に師事。現在、オーケストラ、ミュージカル、JAZZ、など幅広いジャンルで活躍中。



川瀬達也【ティンパニ】

東京音楽大学卒業。2001年、新日本フィルハーモニー交響楽団入団。現在、同楽団首席ティンパニー奏者。尚美ミュージックカレッジ専門学校非常勤講師。打楽器、ティンパニーを野口力、菅原淳、久保昌一、クルト・ハンス・グーディケ、宮崎泰二郎、坂下久美の各氏に師事。

- 【ヴァイオリン】五十嵐由利子/石堂慎士/江刺史江/江面文彦/岡本由紀/小松崎倫子/鈴木尚志/滝谷昭勝/福島彩華/堀内浩之/前嶋靖子
- 【ヴィオラ】鎌田洋之/佐々木清一/新保博康/鈴木鮎美/平田匠弥/松澤慶子
- 【チェロ】江面順子/萱森康隆/喜多僚/菅間康夫/堀内真理子/山田真理子
- 【コントラバス】真鍋良平/尾形和次
- 【フルート】井戸沼美香/川崎聡志 【オーボエ】小出裕之/野口秀樹 【クラリネット】香取秀城/小太刀薫
- 【ファゴット】坂入かおり/豊田和子
- 【ホルン】石田淳一/喜多美鈴/小室友理佳/服部和浩 【トロンボーン】泉信次/稲川靖



弦楽亭室内オーケストラ

地域に根ざした音楽文化の活性化を目的に、那須町の音楽ホール弦楽亭に集まるプロ・アマ混成の高い演奏技術を持つ精鋭音楽集団。小編成ならではの精緻かつ家庭的なアンサンブルを目指し、クラシックの奥深さを栃木県北の皆様に届けている。2年に一回過去3回コンサートを開催し、いずれも好評を博している。栃木県は、いまだ残る震災の爪痕(風評被害、種物・樹木への影響)、また近づくオリンピックに絡めた外国人誘致など、地域ならではの課題に多く直面している。そんななか、音楽がもたらす力で、少しでも元氣な地域に、元氣な人々になってほしい、活動している。